

【大刀洗町】 校務DX計画

大刀洗町では、令和2年度末に児童生徒用・指導者用の一人一台端末と校内ネットワークの整備を行い、令和3年度より授業においてICTの活用を推進してきました。

1人1台端末（タブレットPC）やICT機器を積極的に活用することは「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実だけでなく、教職員の働き方改革を進めるうえでも極めて重要な役割を担っています。

令和5年8月に「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）～教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して～」においても、今後の校務DXの方向性が示されているため、各学校現場の意見を十分に反映しながら、次のような内容を中心に取り組んでいきます。

1. 統合型校務支援システム

教職員情報・児童情報、保健、連絡・共有などの校務機能全般を、クラウドベースで実施する統合型校務支援システムの令和7年度からの導入を行います。

校務支援システムにより、各種データの一元管理や様々な業務へのデータ連携等が可能になることによる業務の効率化だけでなく、教職員が大刀洗町内及び導入自治体間で異動した場合にも同じシステムを使用できるため、新たにシステムを覚える必要がなくなるなどのメリットがあります。

今後、校務支援システムの活用を進め、より効率的に業務を行えるよう取り組んでいきます。

2. FAX・押印の原則廃止

FAXと押印については、文部科学省による通知により原則令和7年度中の廃止となっているため、廃止に向けて教育委員会への提出書類への押印廃止やメール・クラウドサービスの活用を進めるとともに、各種関係機関等に対しても、慣行の見直しを依頼するなどの取り組みを行います。

3. 学校・保護者間の連絡システム

校務支援システム導入に合わせ、学校と保護者間の連絡用アプリも導入して、学校から保護者への連絡の配信や保護者からの欠席連絡等をデジタル化し、利便性の向上と業務負担の軽減を図っていきます。

4. 教職員のICT知識の向上

校務DXの推進に向けて必要な、教職員のICT知識の向上や授業を含めた校務でのICT機器の活用に向けた研修・会議を実施し、また、教職員がICTを効果的に活用できるように、ICT支援員を配置するなどのサポート体制を充実していきます。

5. デジタル採点システム

学校が行うテストの採点業務は教職員の大きな負担となっているため、中学校において、デジタル採点システムを導入し、採点業務時間の削減を図っています。今後、小学校でのデジタル採点システム導入に向けた検討を行っていきます。